



JAPANESE A1 – STANDARD LEVEL – PAPER 1
JAPONAIS A1 – NIVEAU MOYEN – ÉPREUVE 1
JAPONÉS A1 – NIVEL MEDIO – PRUEBA 1

Tuesday 16 November 2004 (afternoon)
Mardi 16 novembre 2004 (après-midi)
Martes 16 de noviembre de 2004 (tarde)

1 hour 30 minutes / 1 heure 30 minutes / 1 hora 30 minutos

INSTRUCTIONS TO CANDIDATES

- Do not open this examination paper until instructed to do so.
- Write a commentary on one passage only. It is not compulsory for you to respond directly to the guiding questions provided. However, you may use them if you wish.

INSTRUCTIONS DESTINÉES AUX CANDIDATS

- N'ouvrez pas cette épreuve avant d'y être autorisé(e).
- Rédigez un commentaire sur un seul des passages. Le commentaire ne doit pas nécessairement répondre aux questions d'orientation fournies. Vous pouvez toutefois les utiliser si vous le désirez.

INSTRUCCIONES PARA LOS ALUMNOS

- No abra esta prueba hasta que se lo autoricen.
- Escriba un comentario sobre un solo fragmento. No es obligatorio responder directamente a las preguntas que se ofrecen a modo de guía. Sin embargo, puede usarlas si lo desea.

次の 1 (a) の文章と (b) の詩のうち、どちらか一つを選んで解説を書きなさい。

1 (a)

5 奥の部屋は父の居間兼書斎であった。床の間に地袋と天袋があり、書類用の抽出の多い小
 箆笥などの調度品が、父の好みで揃っていた。禁じられていたわけではないが、わたしたち
 はめったにこの部屋にはいることはない。それだけに特別の部屋として惹かれてはいた。だ
 がその日なぜわたしたち姉妹がそこにはいつて行ったのかはわからない。母を亡くして間も

父もどこかへ出かけていて留守で、なんとなく母の不在が身に沁み、父の居間にふとはい
 つてみたくなったのかも知れない。

10 その封書を見つけたのは、姉であった。べつに抽出をあけたりして見つけたのではなかつ
 たと思う。さすがにそんなはずらもうするはずはない年齢であった。わたしたちの父は
 大変行儀作法のやかましい人であった。封書はたぶん、机の上に無雑作に、他の書類などと
 いっしょに置かれてあったのであろう。封筒のなかから姉が巻紙をとり出したときの手付き
 を、わたしは横から眺めていた。

15 いい匂いがした。巻紙はするするとほどけて姉の両手の間に弧を描いて垂れた。長いので
 わたしがその一方の端を支え持ち、二人で持つと部屋いっぱい逆さ虹のようにたわたわと
 揺れた。芳香がまるで色彩のように揺曳した。

20 気持がはしやいで来て、二人は楽しそうに声をあげた。もう少し長じていたら、水差の跡
 うるわしく、という言葉のあやも知っていたらうし、その馥郁たる香りに、自分たちのし
 ていることの後めたさも感じたにちがいないが、二人ともまだ小学生で幼稚な姉妹であつ
 た。変体仮名まじりの、いわゆるお家流の流麗な墨のあととは全く読めないのであつた。

父は姉の生れたあと、現在でいうノイローゼ(当時の医者は、脳神経の衰弱症とむつか
 しい言い方をした)の強度なものにかかり、数年も療養したことがあつて、そのときから大
 変もの静かな、大きな声ではものも言わない人になった。子供の騒ぐのが身体に伝えるの
 で、母は存命中、わたしたち姉妹にはいつも、静かにして、静かにして、お父さんがうちに
 おいでるけにね、と言っていた。

25 そういうもの静かな父なので足音もわからなかつた。浮かれ興じていた姉妹は、
 こらっ、何をしよう? だまって人の部屋へはいつでもええのか?

低くこもった声で叱られるまで、全く気がつかず、芳ばしい長い巻紙の手紙で大波小波を
 して遊んでいた。

30 父は男としては眼の大きな人で、怒るとその眼が子供には怖いものであつた。二人はあつ
 と立竦んでしまつて言葉が出なかつた。しゅんとなつて並んで坐つた。

すみません。悪いことして。こらえて(許して)つかあさい。

姉がやつと言つたので、わたしも、

もうしませんけに、こらえてつかあさい。と急いで詫びた。

ひとの心のこもった手紙を玩具にするとはなんという不作法者ぞ。

35 父はついぞ見たこともない恐ろしい顔をしていた。少しも赦さない顔であつた。

- 今日は！ なんて、子供らが悪戯^{わづか}をいたしましたらうか？
- そのとき庭から、遠慮がちな祖母の声をした。歩いて十分ほどの距離に住んでいる祖母は、母方の祖母で、母の死後は、毎日一度は顔を見せて、主婦のない家の台所を真廻って面倒を見てくれていた。
- 40 いや、おかあさん、と父は少し穏かになって、
子供らが留守に机の廻りのものをおもちゃにして行儀の悪いことをしましてのう。
父はそう答えて、
さあ、もうあっちへ行つて遊びっー。
と追い立てるように言った。
- 45 姉妹は助かった思いで、父に頭を下げてから部屋を出た。涙が出かかっていたが、まだ泣いてはいなかった。夏のことで障子も開け放してあるので、池の側に立っている祖母にも事情は一目でわかつていた。

(大原富枝『吉野川』、1997)

(注) 大原富枝(1912 -) 小説家。『地上を旅する者』、『ベンガルの憂愁』等、負の個性を生き抜く男女を描く。

地袋と天袋・いずれも作り付けの小さい戸棚。地袋は床に、天袋は天井に接する。

水茎・筆の美称もしくは筆跡のこと。

言葉のあや・言葉の言い回し。

馥郁(ふくいく)たる・良い香りの漂うさま。

父親の人柄は、どのように描かれているか。

父親と娘達及び祖母は、どのような姿勢でお互いに接しているか。

「さかさ虹」は作者の造語だろうが、造語してでもこの語を入れた作者の意図を量りなさい。

方言の効果について述べよ。

1 (b)

言葉・その他

(前略)

嫌だねえ活字つて
嫌とこうして記すより
いや と云う
もつと

5 鼻にシワ寄せて

きらいだア
更に
九州でのように
好かん

10 どんこんこんこん (どうもこうも) 好かん

詩人は物語りが下手だ
物語りは言葉で述べる
詩人は言葉の専門家
だのにどうして

15 詩人は物語りが下手なのか

読んだ貴女が
身をよじり 背をのけぞらせ
差出人さえも忘れてしまうような
そんな恋文を書きたいのです

20 書きたいけれど書けないのです

と書くことはできるのですが

(川崎洋『川崎洋詩集』、1970)

(注) 川崎洋(1930-) 詩人で作家。著書に『ことばの力』、『ことはあそびたがり』などがある。詩集では『ビスケットの空カン』その他を上梓。

- 1 作者は自分の感情を表現するために、どのような工夫をしていますか。
- 1 この詩にはユーモアが感じられますが、ユーモアを生んでいる要素は何ですか。
- 1 この詩の主題は、何だと思いますか。
- 1 この詩には句読点がありませんが、その効果について述べなさい。